



男女共同参画推進機構 Newsletter

男女共同参画推進本部・ダイバーシティ研究環境支援本部・キャリア開発支援本部・fifty-fifty実現本部・ダイバーシティ推進センター

2024年度（令和6年度）男女共同参画推進活動

我が国の女性研究者割合は、先進諸国に比べるといまだ低く、上位職登用も進んでいない状況にあり、女性研究者のワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境整備や研究力向上、上位職への積極登用に向けた取組が求められています。

この度、奈良女子大学は、研究環境のダイバーシティ向上と優れた研究成果の創出を図り、上位職女性研究者の登用を推進する挑戦的・野心的な数値目標を掲げる優れた取組に対して支援される「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」に採択されました（事業期間6年間：令和6年10月1日～令和11年度末（うち補助期間5年間））。本学は国立女子大学として、女性リーダー育成拠点としての役割が期待されています。男女がfifty-fiftyに活躍する環境とその姿をキャンパスで当たり前のこととして学生にロールモデルを示し、学生の能力・個性の発展に寄与していきます。具体的には、将来的に男女比をfifty-fiftyとする環境実現を目指し、学長の強いリーダーシップのもと男女共同参画推進機構が中心となって、女性教員の採用比率や全学教員比率、上位職比率、教授職比率、さらに管理職への積極登用など意欲的な数値目標を掲げ推進します。また、研究力向上のために女性のライフコースの歩みに沿った「みかさプログラム」で総合的な女性研究者のキャリア形成プログラムを展開し、特に理学・工学系部局の女性教員比率・女性教授比率の向上を目指します。

また、奈良女子大学が代表機関となり、共同実施機関と共に「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の6年間の事業を滞りなく推進してまいりました。多大なご協力のもと、地域におけるダイバーシティ推進を牽引する素晴らしい成果を得ることができ、今後の拡充も期待されます。

さらに、キャリア開発支援本部では、令和3年度に採択されたJSTの補助事業2件に続き、令和6年度は次世代研究者挑戦的研究プログラムに採択され、「奈良女子大学次世代研究者育成プログラムSGC-NEXUS」を推進しています。博士後期課程学生の研究力向上、キャリアパス支援により、安心して博士後期課程へ進学できる体制を構築しています。

奈良女子大学では、文系や家政学系・生活環境科学系分野の女性研究者の輩出と、女性比率が著しく低い理系分野における学生や研究者の育成という点で、大きな役割を果たしてきた歴史があります。今後も女性リーダー育成拠点として、学術発展のために女性研究者の裾野拡大と本学の研究力推進を、強く後押ししてまいります。

最後になりましたが、学内各位のご理解とご協力を賜りますとともに、男女共同参画推進機構の様々な運営にご尽力いただいています多くの教職員各位に感謝を申し上げます。

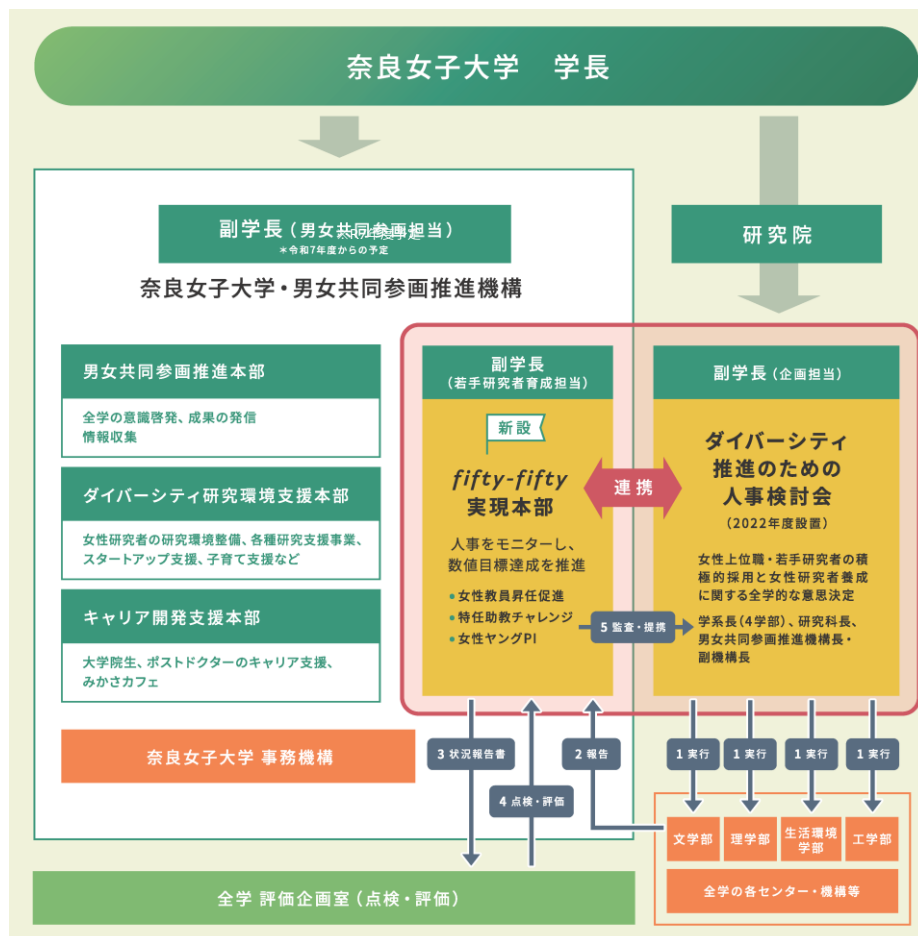


女性リーダー育成型事業キックオフシンポジウムを開催

2025年3月

奈良女子大学学長補佐（男女共同参画担当）・男女共同参画推進機構長 星野 聡子

奈良女
みかさプログラム
NARAJO MIKASA PROGRAM



2024年度「みかさプログラム」の取組 補助事業が採択された2024年10月以降の取組を紹介します。

◆『みがか』ための支援－博士後期課程学生のための支援

●女性研究者コミュニティ「みかさカフェ」5回開催

博士後期課程進学者を継続的に増やし、若手女性研究者育成のための支援を目的として、本学の女子学生・女性研究者からなる全学的な「女性研究者コミュニティ」を形成して交流を図る。

●「みかさフェローシップ」7件採択（応募8件）

本学が先行実施している「SGC-NEXUSプログラム」とは異なった観点から支援する制度として「みかさフェローシップ」を構築し、博士後期課程学生に研究費を支給する。

◆『かがやく』ための支援－若手・中堅女性研究者のための支援

●大型共同研究支援 10件採択（応募12件）

女性教員が研究統括者として実施する共同研究に対して、大型の研究費支援を行う。

●国内・国外訪問研究支援 2件採択（応募2件）

外部資金獲得につながる国内外の第一線の研究者との共同研究参加に係る旅費・滞在費の助成および女性研究者が不在となる期間に講義・実習を代行する非常勤講師を配置する。

●新規採用女性教員スタートアップ支援 3件採択（応募3件）

新規に採用された女性研究者に研究費を支援し、研究環境をいち早く整備する。
女性研究者の国際学術雑誌（査読有）に係る論文投稿経費支援を行う。

●トップレベル女性研究者研究推進支援 1件採択（応募1件）

上位職（教授・准教授）に就いているトップレベルの研究力をもつ女性教員に、研究費の支援とポスドクまたはRAを配置して、研究を推進する予算と時間の確保を図る。

●トップレベル若手・中堅女性研究者特別支援（研究費のみ）7件採択（応募12件）

上位職を目指す女性研究者の研究力向上を加速するため、トップレベル若手・中堅女性研究者への研究費支援を行う。

●研究スキルアップ経費支援（論文投稿経費支援）応募なし

◆『さきほこる』ための支援－上位職(教授・准教授)のための支援

●上位職研究支援 1件採択（応募1件）

上位職（教授・准教授）の女性教員にポスドクまたはRAを配置し、研究時間の確保を図る。

●女性教員昇任支援 2件採択（応募2件）

昇任した女性教員に研究費を支援。女性教員の昇任を推進し、女性研究者等の研究環境整備を図る。

●教育研究支援員制度＜女性リーダー育成型＞ 女性管理職の利用5名、ライフイベントによる利用14名

補助事業の採択に伴い、従来から行っているライフイベント(出産・育児、介護、病気・怪我等)中の教員の教育・研究を支援するため博士課程修士や大学院生を支援員として配置する制度を拡大し、あらたに管理職についた女性教員にも教育研究支援員を配置する。

**キックオフシンポジウム「男女fifty-fiftyに向けた女性リーダー育成拠点の挑戦
～奈良女みかさプログラム みがか・かがやく・さきほこる～」（開催予定）**

2025年3月25日（火）奈良女子大学記念館 14:00～16:30（後日オンデマンド配信）

■開会挨拶 高田将志（奈良女子大学学長）

■来賓ご挨拶 高見暁子氏（文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課 人材政策推進室長）

■JSTご挨拶・事業説明「組織戦略としての女性リーダー育成－奈良女子大学への期待」

山村康子氏（国立研究開発法人 科学技術振興機構 プログラム主管）

■基調講演「ダイバーシティが大学の明るい未来をつくる」

村上雅人氏（情報・システム研究機構監事、前芝浦工業大学学長）

■事業紹介 事業計画・報告：星野聡子（奈良女子大学学長補佐、男女共同参画推進機構長）

人事計画・報告：山内茂雄（奈良女子大学副学長、fifty-fifty実現本部長）

■パネルディスカッション「女性リーダー育成に向けた支援のあり方」

パネリスト：高橋享子氏（武庫川女子大学副学長）、村上雅人氏（情報・システム研究機構監事）、西村いくこ氏（奈良国立大学機構理事）、高田将志（事業総括責任者）

ファシリテーター：星野聡子（事業実施責任者）

【お問い合わせ】 奈良女子大学男女共同参画推進機構

✉ mikasa@cc.nara-wu.ac.jp

URL： <https://mikasa.nara-wu.ac.jp/>

ダイバーシティ推進センター



奈良から 関西から 女性研究者の支援を牽引 ～全国に広がれ！ダイバーシティの取組～

本学は代表機関として、奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学、株式会社プロアシスト、帝人フロンティア株式会社、佐藤薬品工業株式会社（以下「共同実施機関」）との連携のもとで、2019年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択されました。様々な取組を実施し地域における女性研究者の活躍推進を牽引することを目指します。事業の活動拠点として「ダイバーシティ推進センター」が設置されています。

2024年度「ダイバーシティ推進センター」の活動

代表機関・共同実施機関では独自の取組を実施するとともに、ダイバーシティ推進センター（以下 推進センター）において実務者会議（オンライン会議）を開催して、進捗状況や今後の実施内容について意見交換を行って情報共有を図り、推進センターとしての取組を進めている。推進センターには3つの部門があり、本学の男女共同参画推進機構の3本部と密接な連携を取りながら活動を行っている。本事業に係る本学での取組は3本部の活動と重なる部分があるので、一部は省略させていただき、ここでは主にその他の本事業の取組の進捗状況について紹介する。

「女性管理職養成プログラム」ロールモデルの話

2023年度には「女性管理職養成プログラム」の一環として「奈良女子大学の現状とこれからを考える研修会」と題し、管理職になる上で知っておいてほしい事柄について各課・室の課長・室長にお話いただいた（計15回）。2024年度には同プログラムの一環として「これからの管理職に必要な視点！ ～女性管理職からのメッセージ～」と題し、連携6機関の女性管理職の方々にお話いただいた（1月15日～1月31日、水・金曜日、12:30～12:50、オンラインとオンデマンド）。女性管理職としてのやりがいや心がけていること、ワーク・ライフ・バランスに関して貴重なご意見を聞くことができた。管理職として大切なこととして、部下とのコミュニケーションを大事にし、現場のモチベーションを高く保つこと、分かりやすい指示を出すこと、明確な目標をもち、ぶれないことなどが語られた。



「関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワーク」参画機関 第5回意見交換会

2024年度には新たに3機関が参画し、本ネットワークの参画機関は40機関（2025年2月末現在）となった。本ネットワークは、本事業の連携機関及び協力機関、そして関西圏の女子大学をはじめ、大学・高専・企業・団体から成っている（内訳：女子大学14機関、その他の大学・高専4機関、企業・団体22機関）。これまでに4回の意見交換会をオンラインで開催してきたが、2024年度は初めて対面（オンライン併用）で意見交換会を開催した（11月14日）。話題提供として、奈良先端科学技術大学院大学 二階堂祐子特任准教授による「『共創コミュニティー宣言』に基づいたD&I推進の取り組み」、武庫川女子大学 福尾恵介特任教授による「女性研究者の健康について」、(株)A&CO 三竹麻子代表取締役社長による「DE&I企業取り組みの最新状況報告」の講演があった。その後、参加者によるフリーディスカッションを行った。終了後のアンケートでは、「話題提供が多岐にわたっており非常に勉強になりました」「活発に意見交換ができて良かったです」「是非、またこういった場を作っていただければと思います」といった意見が多く好評であった。参加機関25機関、参加人数43名（会場25名、オンライン17名）



「総括シンポジウム 連携が切り拓く新たな視点 ～6機関連携によるダイバーシティ研究環境実現の成果と展望～」

2019年度に選定された本事業は2024年度に最終年度を迎えた。この間、奈良女子大学を代表機関として、連携6機関で様々な取組を行ってきた。総括シンポジウム（2月26日）では、文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課 人材政策推進室長 高見暁子氏、奈良市副市長 鈴木千恵美氏、国立研究開発法人 科学技術振興機構 プログラム主管 山村康子氏らのご来賓をお迎えし、6年間の事業報告を行った。参加者88名（会場34名、オンライン54名）



地域との連携推進

本事業では地域との連携を推進してきたが、本年度は特に地方自治体との連携強化に向けて積極的な活動を行った。

1. 奈良市子ども未来部子ども育成課、奈良市ファミリー・サポート・センターと連携に向けて打ち合わせを行った（5/7、8/29、10/28）
2. 通常（健康時）託児支援のための講習を、奈良市ファミリー・サポート・センターと共催で開催した（10/15）。また、本学主催のサポーター対象のフォローアップ講習（1/31）に、奈良市ファミリー・サポート・センターの援助会員にも参加を呼びかけた
3. 奈良市子ども育成課、奈良市ファミリー・サポート・センター、奈良女子大学共催「子育て応援フェア」を開催した（10/28～11/1 市庁舎1Fにて）
4. 生駒市子育て健康部子育て支援総合センターおよび子育て健康部こども政策課と面談を行った（6/27）



R6年度「子育て応援フェア」の展示（市庁舎1F） 本学のブース(右)

「訪問型」病児・病後児保育システムのモデル構築

1. 病児・病後児保育WG会議を開催した（第29回4/24、第30回7/17、第31回10/16、第32回1/29、小児科医、看護師、保育士、ダイバーシティ推進センター特任教授、ダイバーシティ・コーディネーターによるオンライン会議）
2. 10月 病児保育支援の本格的運用を開始した
3. 病児・病後児の託児に関連して、利用者登録説明会（9/13、11/11）、サポーター登録説明会（7/8、7/11、9/18）、病児・病後児保育支援登録会（5/23、11/8）を開催した
4. 病児・病後児保育支援のための講習を行った（12/9、12/14）、フォローアップ講習として病児保育室「きらきら保育園」見学（9/4～11）や事故予防とヒヤリハットに関する講習（1/31）を実施した
5. 病児保育支援開始に向けたかかりつけ医の訪問・面談を行った（10/4、10/16、11/29、12/4）
6. 武庫川女子大学との連携推進として、フォローアップ講習（9/25、10/31）や病後児保育支援講習（オンデマンド配信）を共有して実施した

女性研究者の上位職への登用に向けた取組

2019年度に制定した女性管理職支援制度を、2024年度には5名の女性管理職の方に適用した。

共同研究スタートアップ支援事業を6機関連携で実施

6機関の連携で共同研究スタートアップ支援事業を実施し、女性研究者が代表研究者となっている3件の共同研究が採択された（研究代表者：奈良女子大学1件、武庫川女子大学2件）。

特に優秀な女性研究者の顕彰と研究費支援を3機関連携で実施

奈良女子大学、奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学の連携で、特に優秀な女性研究者対象の賞「ダイバーシティ推進センター女性研究者賞」の募集を行い、1名の女性研究者（奈良女子大学）が選ばれ研究費が支援された。

外部評価を実施

2024年度は、これまでの外部評価結果を踏まえて事後評価に向けた準備を進めるとともに、2025年2月26日の総括シンポジウムについて外部評価委員3名の方より評価をいただいた。「6機関が連携してダイバーシティ研究環境実現に取り組まれていること、特に「訪問型」病児・病後児保育システムの構築については高く評価します」等のご意見をいただいた。

【お問い合わせ】 奈良女子大学ダイバーシティ推進センター

✉ diversity-center@cc.nara-wu.ac.jp

URL : <https://diversity-center.nara-wu.ac.jp/>

男女共同参画推進本部

男女共同参画推進のため、意識啓発事業として公開講座「知る・学ぶ・伝えるequality」の開催、関西圏女子大学と連携したプロジェクトである異分野交流会の実施、地域自治体との連携による男女共同参画への取組などを行っています。

地域連携事業「知る・学ぶ・伝えるequality」

「知る・学ぶ・伝えるequality」講座は社会連携センターが行う地域連携事業の一つとして、男女共同参画推進機構が2010年から展開している事業である。「equality・平等」に関する様々なテーマで男女共同参画の根幹である「多様な個性の尊重」を身近な問題として捉え、学び、広めることを目的として公開講座を開催してきた。今年度は昨年度に引き続き「持続可能な生活・生き方」をテーマとして開講した。

「知る・学ぶ・伝えるequality」公開講座 「持続可能な未来に向けて～どんな出産をしますか」

【日時・場所】 2024年10月28日（月）13：30～15：00 オンライン開催

【講師】 松岡 悦子氏（奈良女子大学名誉教授、2024年第34回南方熊楠賞受賞者）

【参加者】 94名（オンライン配信40名・オンデマンド配信54名）

松岡氏は、インドネシア、韓国、中国、バングラデシュなどで出産等に関する現地調査を多数行い、世界の出産を研究する。講演では、まず、出産のイメージが時代や文化によって異なることについて、現在の日本でのネガティブなイメージや、出産が女性にとって最も幸せな時とするインドネシアの事例が紹介され、松岡氏の専門である文化人類学の手法として、比較の視点から、日本で暮らす私たちが今思う「正しい出産」を疑ってみようといきかけられた。次に、文化によって作られる出産は多様であり、そこに優劣はないことが重要な見方であるとし、多様な出産の事例が紹介された。具体的には日本の岩手県、インドネシアのジャワ島、バングラデシュの農村、ハンガリーでの出産やイギリスの出産政策などであり、それぞれの事例から見えてくることとして、「女性は自分で産むことができる」、「出産をコミュニティ全体で支えること、人々が手を添えるケアの重要性」や「出産の近代化（医療化）が世界的に進んでいること」、結果として「帝王切開の世界的な増加」がみられること、その一方で「医療介入が多いと、出産の主役が女性ではなくなる」といった問題提起がなされた。また、現代の日本の出産と医療化の動向について、産み場所は自宅・助産所・クリニック・病院の4か所の選択肢があるが、99%以上がクリニックと病院である現状、麻酔分娩の増加などが指摘され、妊娠・出産・産後の過程に多くのお金が使われながら、必要な情報が当事者に届いているかといった疑問も呈された。最後に、イギリスでの出産をめぐる議論を参考に、正常な出産と女性の選択を中心に据えた出産政策の必要性が指摘され、女性と助産師を中心に位置づける未来に残したい出産についてまとめられた。質疑応答では、「少子化と出産のあり方との関連」や「助産師の世界的な位置づけ」などについて質問が寄せられ、ひとつひとつ丁寧に答えられた。



男女共同参画活動のアピールー自治体・他団体等との連携への取組ー

◆奈良県「なら男女共同参画週間イベント2024」、「ライフデザインセミナー」に協力参加

2024年6月28日（金）～30日（日）に開催された「なら男女共同参画週間イベント2024」（県女性センター主催）に男女共同参画推進機構の取組に関するパネルを展示し、8月3日（土）に開催された第3回実行委員会に安田特任教授が協力参加した。また、2025年1月25日（土）に開催された県こども・女性課主催の「ライフデザインセミナー」に星野男女共同参画推進機構長が中高生を対象にレクチャーし、ライフデザインの作成に協力参加した。

◆奈良県こども・子育て支援推進会議に協力参加

2024年5月17日（金）および2025年2月7日（金）に開催され、星野男女共同参画推進機構長が協力参加した。

◆「日本女性会議2025榎原」実行委員会に協力参加

2024年5月31日（金）に開催された第4回実行委員会に安田特任教授が協力参加し、11月16日（土）に開催されたプレ大会に本学の女性活躍推進の取組に関するパネルを展示した。

◆奈良ゾンタクラブ理系若手女性研究者奨励賞第6回選考と授賞式

上記の賞の選考の結果、堀沙耶香氏（自然科学系生物科学領域准教授）を第6回受賞者に決定した。授賞式は、2024年10月10日（木）に本部管理棟応接会議室にて举行され、奈良ゾンタクラブ櫻井笑子会長より目録が進呈された。



◆2024年度奈良女子大学マイクロン科学技術研究助成を実施

マイクロン・テクノロジー財団の寄付を受け、奈良女子大学に在籍する理系を専門とする大学院生および女性研究者を支援するため、「奈良女子大学マイクロン科学技術研究助成」を立ち上げ、女性研究者1名、博士後期学生4名、博士前期学生5名に研究助成を行った。

女性研究者の環境整備や研究力向上と次代の優秀な女性研究者の育成のため、関西圏女子大学間連携による女性研究者共同研究支援を目指して、2014年に関西圏の5女子大学有志によりワーキンググループが結成された。現在は奈良女子大学、武庫川女子大学、神戸松蔭女子学院大学の3大学メンバーが、年に数回のワーキンググループ会議を開催し、女性研究者の共同研究の推進、協働による研究環境の整備・充実、育児・介護共同利用システムなどを目指して活動している。2024年度は以下の5回のワーキンググループ会議が開催された。

	開催日	会場	主な議題
第55回	6月17日	オンライン開催	第13回異分野交流会開催の打ち合わせ
第56回	11月13日	オンライン開催	第13回異分野交流会について（発表演題確認と役割分担）
第57回	12月20日	オンライン開催	神戸松陰女子学院大学共学後の参画について
第58回	2月8日	武庫川女子大学	第13回異分野交流会について（開催とその反省） 第14回異分野交流会の開催について
第59回	3月13日	オンライン開催	令和6年度異分野交流共同研究シーズ発掘支援経費の審査について 第14回異分野交流会の開催について

女性研究者の研究が発展しにくい原因のひとつとして、出産・育児・介護などのライフイベントのために他の研究者と交流する時間がなく、共同研究を実施しにくいことが挙げられる。共同研究萌芽を促進するための試みとして、2016年2月に「異分野キックオフ交流会」を武庫川女子大学で開催し、それ以後毎年開催してきた。今年度は第13回異分野交流会を武庫川女子大学で開催した。異分野の研究者が集い研究成果に対して、それぞれの立場から意見を交換することにより、思いがけない共同研究の萌芽が期待できる。

【プログラム】

13:00 開会 あいさつ 武庫川女子大学副学長 高橋享子氏

13:10 研究発表 (パワーポイントによる口頭発表)

15:30 グループワーク

16:30 グループワークまとめ発表と講評

17:00 閉会

【発表者と演題】

1. 奥村紀之 (神戸松蔭女子学院大学)
「生成AIによる健康食献立の自動生成に関する取り組み」
2. 池谷知子、太田瑞稀 (神戸松蔭女子学院大学)
「材料を表すデ格とカラ格の使用条件」
3. 縄手望未 (奈良女子大学博士前期課程修了)
「持続可能な食と農の展開を考える」
4. 藤井善仁 (武庫川女子大学)
「過疎地域における女性リーダー登用の阻害要因の検討」
5. 吉田梨夏 (神戸松蔭女子学院大学)
「ヨリ格とカラ格の書きことばコーパスにおける使用状況の比較」
6. 大山紀子 (武庫川女子大学)
「管理栄養士によるメニュー献立の食事提供の試みが大学女子競泳
コンディショニングと競技記録に及ぼす影響」
7. 老家初果 (武庫川女子大学)
「着るナタデココへの挑戦ーバクテリアセルロース (BC) の食料
とポリエチレングリコール (PEG) による衣料素材としての物性」
8. 油布茂子 (奈良教育大学教職大学院)
「小学校外国語科における児童のアルファベット習得について深め



Tel : 0742-20-3204 e-mail : somusomu@iimu.nara-wu.ac.jp

ダイバーシティ研究環境支援本部

(旧女性研究者共助支援事業本部・女性研究者養成システム改革推進本部)

「女性研究者支援モデル育成事業」（2006～2008年度）「女性研究者養成システム改革加速事業」（2010～2014年度）において培った女性のライフイベントに配慮した教育研究環境の整備や女性の研究力強化支援を採択期間終了後も大学の重要な事業と位置付け、女性研究者共助支援事業本部と女性研究者養成システム改革推進本部において更なる整備と拡充を図ってきました。2016年4月、教育研究活動のダイバーシティ化を推進するため、2本部を発展的に統合して「ダイバーシティ研究環境支援本部」を設置しました。さらに2019年度には、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）事業に採択され、ダイバーシティ推進センターと共にさまざまな取組を進めています。

教育研究支援員制度

教育研究支援員制度は、出産・育児・介護に関わる教員（男女を問わず）に支援員を配置する仕組みである。令和2年1月より、怪我や病気が理由の場合においても、教育研究支援員の配置ができるようになった。また、令和6年10月「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」に採択され、女性教員で、育児の場合は子どもの年齢が小学校6年生までに拡大され、あらたに管理職にある女性教員に教育研究支援員が配置できるようになった。

2024年度教育研究支援員制度利用状況

	5月～9月	10月以降
利用者数	11名	19名
支援員実人数	24名	32名

子育て支援システム

「公共の子育て支援でカバーしきれないところに支援を！」の声に応えて、「ならっこネット」を運営し、17年目を迎えた。専属（共助）サポーターによる支援を行う「ならっこコース」と、専属サポーターのいない「プチならっこコース」を利用者が選択することができる。「ならっこコース」では、Webシステム「Webならっこ」が利用でき、効率よく依頼できる。また、安全で安心な支援を実施するために、各種サポーター講習や大学が保険に加入し、本部スタッフがサポートしている。学生の利用には「育児奨学金制度」、ポストドクターには「ポストドクター育児支援金制度」が整備されており、小学校6年生までのお子様をお持ちの方がならっこネットを利用した際の託児料を支援している。

2025年2月末現在、「ならっこネット」登録利用者数は58名（支援される子どもの数87名）、登録サポーター数は64名である。2月末までの本年度の「ならっこネット」依頼件数は246件で、うち216件が実施された。また、ならっこ病児保育は1件の支援が実施された。

「ならっこイベント」は、学会や講演会などでの託児を行うもので、運用14年目を迎えた。「集団託児」のほか、マンツーマンの「個別託児」が選べ、利便性を高めている。コロナ禍で多くのイベントがオンラインに移行していたが、今年度2月末時点で「ならっこイベント」の依頼件数は42件、うち36件実施し、開催数は回復している。

今年度も多くの託児利用があり、支援を必要とされている方は多い。新規の利用者もサポーターも増えている。また入学前の大学院生からの託児利用に対する問い合わせも増えてきている。

新型コロナウイルス感染症は5類となったが、子育て支援においてはこれまで通り感染症対策として、マスクの着用をお願いしている。状況に合わせ対策の見直しを行いながら今後も託児を実施する。

サポーター講習

子育て支援システムを安全、安心に運営するためには、信頼のおけるサポーターの養成が欠かせない。サポーターに自信をもって支援活動を行っていただけるよう、必要な知識とスキルを十分に学ぶことのできるサポーター講習を実施することが必須である。

本年度は、健康時の支援を行うための基礎知識やスキルの習得を目的とした『通常託児支援のための講習』（「サポーター登録説明会」を含む12時間）、病児・病後児保育支援に必要な子どもの病気に関する知識や看護スキルを学ぶ『病児・病後児保育支援のための講習』（10時間）を実施したほか、子育て支援に関する知識や技術を更に広く深く学んでいただくための『フォローアップ講習』として下記の4講座を開催した。

- ①病児保育園「きらきら保育園」
（奈良市菅原町）見学（9/4.5.6.11）
- ②【公開講座】自閉スペクトラム症ってなに？
ー特性の理解と発達支援ー（9/25）
- ③乳幼児期によくある病気とその対応方法と
発達段階別の事故予防などについて
（10/31・武庫川女子大学主催）
- ④子どもに“気をつけて”は通じていない?!
ー事故予防とヒヤリハットー（1/31）

公開講座には子育て支援に関心のある一般の方も多く参加され、好評を得た。登録サポーターには会場での対面講習のほか、後日オンデマンド配信を行った。



ワークライフバランス支援相談室(旧母性支援相談室)

3名のカウンセラー(産婦人科医師・助産師・社会福祉士)が、女性特有のこころとからだの悩み相談、妊娠・出産・子育てに関する相談、介護(高齢者・障がい者)福祉に関する相談等、健やかにワーク・ライフ・バランスを保てるように学生・教職員からの相談に対応している。相談者の中には男性も含まれており、より多くの学生や教職員に気軽に利用していただけるように、2016年4月より相談室の名称をワークライフバランス支援相談室に変更、また、2019年10月より奈良工業高等専門学校及び武庫川女子大学、2021年4月よりプロアシスト社、佐藤薬品工業社、帝人フロンティア社も共同利用ができるようになり、ご相談に来られている。

コロナ禍で開始したオンラインによる相談対応について、相談者の利便性を考え、今年度も継続している。また今年度から、授業時間・終業時間後に来室しやすいよう、開室時間を15時～18時に変更した。

「ミニ講座」では、「介護保険・障がい者福祉制度についての知識や介護予防など役立つ情報の提供」「生涯にわたる女性の健康について性差医療の立場から理解を深める」「生命の誕生・いのちを育むということに意識を向ける」をテーマに、全9回すべて初のオンデマンドにて開催し、のべ347名のお申込み(学内280名・共同実施機関67名)があった。

情報の発信

今年度(2月末現在)は、「ならっこネット通信」(メールマガジン)を2回、「ならっこニュース」(メールマガジン)を15回配信、「サポーター通信」を1回、ワークライフバランス支援相談室チラシを2回発行した。

ならっこルーム(奈良女子大学託児支援室)

「ならっこルーム」は2008年に開設された託児支援室であり、ならっこネットでの支援のほか、ならっこイベントでの託児や子育て支援システム利用者のご家族、お子様を連れて来学された方などが利用できる。

新型コロナウイルスの感染法上の分類が季節性インフルエンザと同じになったが、利用の際はこれまでと同じ程度の注意をお願いした。(マスク・手洗い・アルコール消毒、空間除菌脱臭機・換気扇の24時間稼働など)。2月末現在で79件の予約があり、うち71件の利用があった。利用者のご家族とお子様がよく遊び過ごしたり、お子様を室内で遊ばせながら一緒に過ごす利用者も多い。今年度も新しい利用者やお子様の登録も増え、ますます需要が高まっている。

女性研究者ネットワーク

女性研究者ネットワークでは、女性研究者の研究力の更なる向上に資することを目的として、学内で主に女性教員を対象とした情報を整理して配信すると共に、大学内外からの女性研究者にとって有益な情報を集約してメール配信している。2017年度より、情報提供を希望する大学院生・ポストドクターにも配信している。2024年度(2月末現在)は、学内外の公募情報(研究スキルアップ経費他)、ワークライフバランス支援相談室、子育て支援システム、教育研究支援員制度の利用案内、講演会案内等、43件の情報配信を行った。

研究活動支援事業(研究スキルアップ経費)

本事業では、2010年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速事業」(2011年度より科学技術人材育成費補助金として実施)に採択され、5年間の採択期間終了後も引き続き、理工農系女性研究者の採用促進や、研究スキルアップをはじめとする研究者養成活動等の取組を進めてきた。2017年度からは、研究スキルアップ経費の支援対象を、理工農系に医・保健分野も加えて拡大し、2020年度からは、さらに支援対象を全ての分野へ拡大し、対象者も、常勤職員(助教・専任講師・准教授・教授)だけではなく特任教員、博士研究員からの応募を可能とした。

2024年度研究活動支援事業の活動実績

◆研究スキルアップ経費支援

女性研究者を対象に、国際会議・国内会議等の参加及び英語論文校閲等の経費を支援した。

2024年度研究スキルアップ経費支援の利用状況

理学系研究者	工学系研究者	農学系研究者	医・保健系研究者
10件	2件	4件	5件

女性研究者の研究活動支援に関する問い合わせ先:

URL: <https://gepo.nara-wu.ac.jp/keihishien/>

e-mail: j-kaikaku@cc.nara-wu.ac.jp

ダイバーシティ研究環境支援本部の活動についての問い合わせ先

Tel/Fax: 0742-20-3344

URL: <https://gepo.nara-wu.ac.jp/>

e-mail: shien@cc.nara-wu.ac.jp

2024年度は、新しい補助事業である次世代研究者挑戦的研究プログラム（新SPRING）に採択され、SGC-NEXUSという名称で、博士後期課程学生支援事業を継続することができました。NEXUSは「つながり」を意味し、キャリア開発支援本部においては横のつながりと縦のつながりを促進する取組みを展開することになりました。研究インターンシップ、自己分析セミナー、進路に関する相談等の継続と、SGC-NEXUSに関連するイベント等の企画・実施、授業に加え、産学の連携に関する活動にも力を入れました。

新たな補助事業の支援対象者の募集は4月と9月に実施し、HPや大学院生向けメールマガジン等で周知した。2024年度春入学者が8人、秋入学者1人、学年不問枠(欠員募集)1人が新たに採択された。以前からの支援プログラムであるSGC並びにSGC+の受給学生も同一の支援内容となり、月額20万円の生活費と年間上限28万円の研究費を支援した。2024年度の支援対象者は、3月末時点で32人となった。

多様な場面で活躍する学位取得者やOG、博士採用に積極的な企業などを招き、気軽に話ができるキャリアトークカフェを開催した。2022年度から通算で23回実施した。



5月に受給者、事業運営に関わる
教員等による交流会を実施し、自己
紹介やグループトークを楽しんだ。
12月にはミニワークショップを実施
して、研究室で感じる様々な想いを
シェアしあった。



大学院生が身につけた専門性や知識を活かして事業を起こすこともキャリアのひとつである。2024年度は、ユニークな起業をした2人の講師を招き「話を聞く会」を実施した。

博士後期課程学生を中心とした研究ポスター展「博・学・カフェ」は今回で3回目となった。ポスター参加者は15人で、教員による投票や学生のコメント等で受賞者が選定された。キャリア開発支援本部は、運営上のアドバイスをしたり、研究科長賞の授与などにより支援した。

8月にインドネシアのジョグジャカルタ大学の学生6人と博士後期課程学生8人がプレゼンとトークを楽しむ「英語で研究交流」を実施した。

10月に英語論文執筆セミナー（セミナーとワークショップ、個別指導）を実施した。



受給者を対象とした海外派遣では、学会参加や発表、調査などの目的で、渡航費、滞在費、調査活動に必要な経費が支援された。支援実績はアメリカ、台湾が各3人、韓国、ベトナムが各2人、フィリピン、ギリシャ、イギリス、中国、イタリア、ドイツ、オーストリアが各1人であった。

また、研究インターンシップには、(株)竹中工務店 2 人、ダイキン工業(株)、日本ゼオン(株)、(株)バイオーーム、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所に各 1 人が臨んだ。



研究で身につくどこでも役立つ力「トランスファラブルスキル」についてのセミナーとワークショップを外部講師を招いて、1月に実施した。



授業等、学習支援 博士後期課程

●自己分析・ワークスタイルセミナーA

ワークシートを用いてコーディネーターとの個別セッションを実施する自己分析と、学生自身がセミナーを企画する取組を並行して行った。

セミナー企画は自分のキャリア形成にプラスの影響を与える講師を選定して企画書を作成するものである。7人が受講した。その後の公募企画「Dr'sセミナー」に1名が採択され、11月にセミナーを実施した（右：ポスター）。



●キャリアセミナーA

日常の研究活動等の中で、トランスファラブルスキル（転用可能な能力）についての意識化を促し、選択したスキルの自己評価と他者からのコメントを得る機会を提供した。受講期間中のキャリアに関する活動（インターンシップや、セミナー企画実施、キャリアインタビュー）を含むプレゼンを行った。受講者は4人。

●論文執筆入門セミナー

SGC-NEXUS運営チームの遊佐・山内両教授が、日本語で論文の具体的な書き方やポイントを指導する4回のセミナーを実施した。毎回の課題に取り組むことで、標準的な形式の論文の骨組みを習得することを目的とした。博士後期課程10人、博士前期課9人、学部生2人が受講した。

学外機関との産学連携が加速

●株式会社アカリクとの連携協定

大学院生向けのキャリア開発支援及び就職支援サービスの充実を目的として、令和6年10月1日付で株式会社アカリクと連携と協力に関する協定を締結した。10月28日には、学長と山田社長により、大学院生のキャリア開発支援の現状や特色、今回の協定締結による新たな取り組みへの期待等、様々な観点で活発な意見交換が行われた。

●京都クオリアフォーラムへの入会

7月に京都で開催された、博士対象の合同企業説明会に参加したことを機に、京都に拠点を持つ企業8社と京都・奈良の7大学による「京都クオリアフォーラム」への参加を検討することになった。10月に学内で承認され、入会の手続きを行った。11月の代表者会議には学長が参加し、産学連携に向けた各種の取組が始動した。

C-ENGINE（産学協働イノベーション人材育成協議会）の研究インターンシップに6人をコーディネート

2024年度の実施状況は下表のとおりである6件のうち4件が博士後期課程学生（SGCの受給学生）であり、博士後期課程学生の割合が増加し、今年度は、初めて博士前期課程の参加人数を上回った。

4月にはキャリア開発支援本部の説明会において、前年にインターンシップに参加した学生が体験発表をした。また、7月に実施されたC-ENGINE主催の博士後期課程学生の研究発表を中心とした「CHIの交流会」で2名が発表を行い、11月のシンポジウムでは1名が研究インターンシップ報告に登壇した。

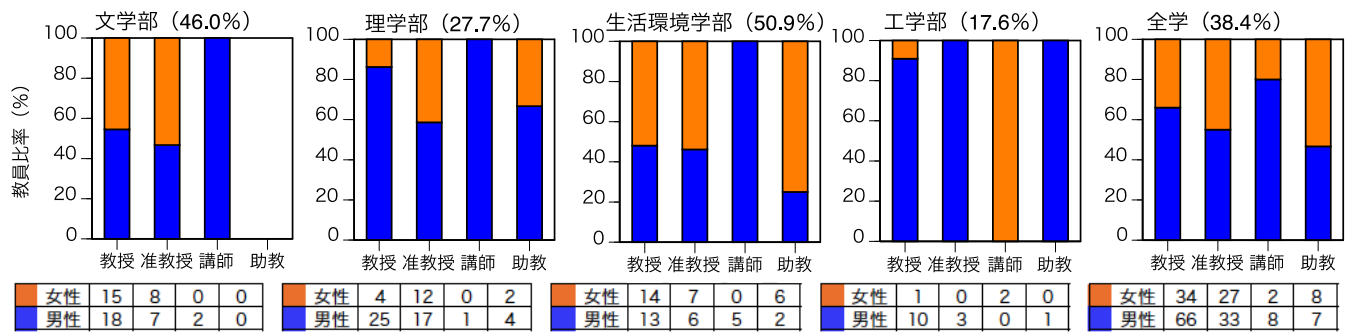
2024年度 C-ENGINE 研究インターンシップ実績

所 属	インターンシップ先	実施期間	テーマ (企業報告書の記載による)
自然科学専攻(生物)	D2 (株)竹中工務店 技術研究所 (千葉)	5/13～6/14	技術研究所の調の森等をフィールドにした生物多様性保全に関する研究活動
化学生物環境学専攻 (化学コース)	M1 (株)リコー (神奈川)	8/19～9/6	プリンテッドエレクトロニクス： インクジェット作像プロセスの開発
生活工学共同専攻	D2 (株)竹中工務店 技術研究所 (千葉)	8/21～9/20	医療環境における安全安心な照明／ 空調／温湿度環境計画の確立 (F S)
自然科学専攻(数学)	D2 ダイキン工業(株) テクノロジー イノベーションセンター (大阪)	11/11～12/20	熱交換器パス取りを最適化する アルゴリズムの開発
数物科学専攻 (物理学コース)	M1 電力中央研究所 (神奈川)	12/9～12/20	電圧解析技術を用いた全固体電池の 性能評価
自然科学専攻 (生物)	D1 日本ゼオン (株) セルバイオサイエンス研究所 (京都)	2/1～2/28	医療、生化学、生命科学に用いられる 材料・製品開発に関するテーマ

その他の活動

- 大学院生等のキャリア（就活）等相談、（個別対応の）自己分析セミナー
- 学術振興会特別研究員等申請書作成支援
- ドクターコース進学説明会、学振説明会、受給者向け説明会にて支援内容の説明
- 英文校閲経費支援、DCD支援(学会等交通費)
- 補助事業における受給者の研究費の執行状況調査
- メールマガジンや「ご利用ガイド」等の広報活動
- 博士後期課程修了者の進路把握のための調査と今後に向けた方策の検討

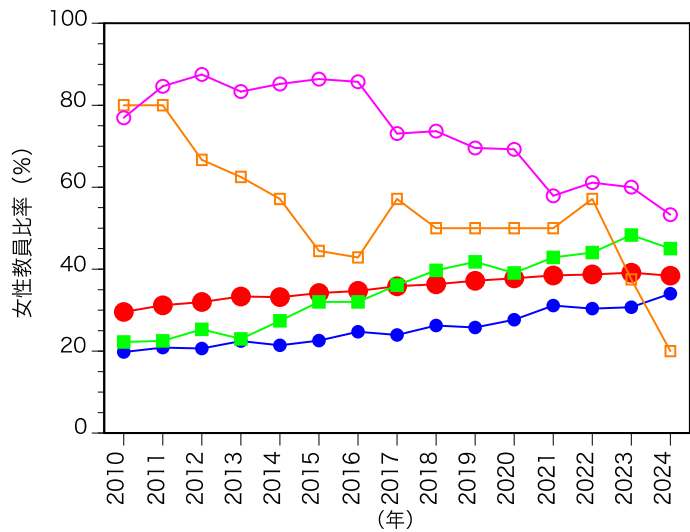
奈良女子大学教員の男女別人数（2024年5月1日現在）
大学全体の女性教員比率38.4%



* 教員は学部には所属する教授・准教授・講師・助教とした。講師は専任講師である。* * 図中括弧内の数字は各学部、全学の女性教員比率を示す。

奈良女子大学教員に占める女性教員の割合

本学の教員数は、2024年5月1日現在で185名。そのうち女性教員は71名（38.4%）である。2005年から20年間に渡る男女共同参画推進機構（男女共同参画推進室としてスタート）のリードによって女性研究者への支援体制が整備されたこともあり、女性教員比率は徐々に上昇してきた。本Newsletterが発行された2010年から2024年の推移をみると、女性教員比率は29.6%から38.4%、職階別では学部によって事情が異なるが、全体で教授19.8%から33.3%、准教授22.2%から45.2%であり、地道な改善を継続し、卓越した成果を示しつつある。2022年6月に学内公表された「一般事業主行動計画達成のための奈良女子大学の取組方針」では、令和10年3月までに女性教員在職比率44%、自然科学系では女性教員の在職比率を35%、上位職比率を31%に向上させることとした。



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」（2019～2024年度）により、女性研究者の研究力向上、研究環境改善に向けて様々な取組が実施されており、女性教員比率向上につながり、着実に成果がみられる。また、2024年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」（2024～2029年度）に採択され、これまでの取組を発展させ、さらなる努力を続けて、女性リーダー育成を推進していく。

奈良女子大学意思決定機関等における女性比率

2024年5月1日現在、学長・副学長の女性教員比率は33.3%であり、学長補佐・大学院研究科長・各学部長・評議員からなる（学長、副学長を除く）大学の意思決定機関等における女性比率は20.0%である。いずれも国立大学の平均を大きく上回っているが、欧米各国に比べると未だ低く、理工系分野でのさらなる男女共同参画推進が求められる。大学運営における男女「50：50」を目指し、さらなる努力が望まれる。

編集・発行：奈良女子大学男女共同参画推進機構
連絡先：奈良女子大学総務課
〒630-8506 奈良市北魚屋東町
Tel：0742-20-3204 Fax：0742-20-3205
URL：https://gepo.nara-wu.ac.jp/

